

担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

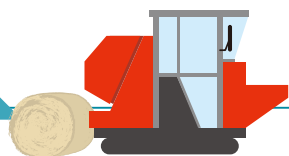
今月の話題

大麦わらサイレージ

肉牛粗飼料に稲と作業分散

富山県が新体系

富山 山県農林水産総合技術センター畜産研究所は、大麦わらをロールベールサイレージに調製し、肉牛の粗飼料に使う体系を考案しました。大麦の収穫時に汎用（はんよう）コンバインでわらを適度な長さに切断して排出。小型のロールベラーで回収し発酵させると、長期保存が可能な良質のサイレージができます。作業は大麦を収穫する5、6月のため、秋に作る稲わらサイレージと組み合わせれば、飼料作りの作業分散につながると期待が高まります。



県内は水田転作として大麦「ファイバースノウ」の栽培が盛んですが、わらは大部分がすき込まれ、未利用資源となっています。飼料として販売できれば、水田の面積当たりの収益が高められます。

最初の作業は、わらの細

断です。汎用コンバインで、排出するわらのカット長を2、3段階で調節する機能を使い、わらの長さが全体の3分の1（約26センチ）になるよう設定。これより細かくすると、回収作業が難しくなります。

回収には、小型で扱いや

すい自走式ロールベラーを使います。試験ではタカキタの「SR1020」を使って回収しながら走行すると、約10分で1ロールが完成します。全体の8割ほどの細断わらを回収し、口ス率が低くなりました。

品質面でも問題はありませんでした。市販の乳酸菌を加えて発酵させると、酸や窒素の割合から計算するサイレージの評価基準、Vスコアは半年後に100、1年後に89と高い数値で、ずっと「良」でした。栄養素では、ビタミン含有量は稲わらと同等以下で、ビタミンを抜く必要がある肥育中期の牛にも使える

ことが分かりました。

同研究所は「粗飼料を自作する畜産農家が増えているが、稲わらサイレージだけで賄うと秋に作業が集中する。春にも大麦でサイレージを作れば作業分散ができ、増頭などの規模拡大もできる」と説明します。

今が旬
この言葉

農地集積
バンク

農地中間管理機構（農地集積バンク）は、政府が進める農政改革の柱の一つとして創設された組織です。2014年3月に関連法が施行されました。同機構は耕作継続が難しい農家から農地を借りて一定にまとめた上で、担い手に貸し出す役割を担っています。農水省は11月16日、同機構の見直しの方針を取りまとめました。農地集積・集約化に向けた地域での話し合いを活性化することを柱とし、農地利用集積円滑化事業や地域での活動組織を事実上取り込む形で軌道修正しました。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

シマサルナシで全国初の産地化を目指す 大玉で食味良好の「みえ紀南蔓1号」

キ ウィフルーツの近縁種として知られる「シマサルナシ」。温暖な地域に生息しており、県下では熊野灘沿岸部を中心に古くから自生しています。東紀州地域ではサルをはじめとする獣害が深刻で、その対策として紀南果樹研究室では獣害に強い果樹の研究を行ってきました。そこで、シマサルナシに着目し、地帯別に同種を集め、特性や栽培性など

を調査し、その中でも果実が大きく糖度の高い「みえ紀南蔓1号」を選抜しました。「みえ紀南蔓1号」の果実は縦径約40ミ、横径約33ミ、果実重は約30g。追熟により糖度は15度にまで上がりま

す。一般的なシマサルナシよりも大玉で糖度も高くなります。果実の表面の毛はほとんどなく、果肉は濃い緑色をしており生食だけでなく加工用にも適しています。柵栽培で約1・6ミ/10ミの収量を見込め、今後の県内特産物候補として期待が高まります。果実は追熟が必要で、固い状態で収穫することから野生動物による被害を回避することができま

す。三重県南部が自生地の北限とされる「みえ紀南蔓1号」は、東紀州をはじめとした温暖な地域での栽培に向きます。11月下旬より出荷を行うことができ、年末商材として活用できます。また、今年度より関東方面の量販店にて販売を予定しており、産地化に向けた取り組みが進められています。



「みえ紀南蔓1号」の果実

お問い合わせ先

三重県農業研究所 紀南果樹研究室
中央農業改良普及センター

☎ 05979-2-0008
☎ 0598-42-6323

県内NEWS

(日本農業新聞より)

JA松阪 県立相可高で料理教室開催

JA松阪女性組織連絡協議会年代別組織ミドルミセスは10月下旬、多気町にある県立相可高校で料理教室を開き、会員36人が参加した。この料理教室は、同校食物調理科の村林新吾教諭と同科の生徒を講師に、毎年開催している人気企画。今回の教室では「松阪豚のちゃんちゃん焼き」や「野菜のかき揚げ」など全4品を作った。どの料理も、簡単においしくできるもので、会員らは手際よく調理を進めていき、1時間ほどで完成した。

(2018/11/17 県版三重)

JA伊勢 地元特産柿 親子で収穫

JA伊勢玉城柿部会は玉城町で食農体験イベント「ぼくら農業探検隊・次郎柿編」を開いた。親子で食と農の大切さや、地元農産物の魅力を感じてもらうことが目的で、過去には同JA管内産の「ミニトマト」や「青ねぎ」でも同様に行っている。JA管内の小学生以下の子どもの保護者ら22組が参加した。同町の園地で柿「次郎」の収穫を体験した後、JA玉城選果場で、選果の様子を見学した。参加した児童は「いつもはお店で売っている柿しか見たことがなかった。自分で柿を取ることができてとても楽しかった」と笑顔を見せた。

(2018/11/11 エリア東海)

JA鳥羽志摩 身近な拠点を核に「協同活動」強化 支店感謝祭が好評

JA鳥羽志摩の各支店・店舗は、2017年度から組合員・地域住民との関係強化を図る「支店協同活動」の一環として、支店感謝祭を開いている。身近な拠点である支店・経済店舗を核に、改めて組合員をはじめ地域との絆を深める取り組みを強化している。17年度、毎年開催しているJAまつり会場が改修工事で使用できず、各支店で感謝祭を開いた。組合員からも「親しみを感じる」と評価が高かった。

(2018/11/17 県版三重)

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します！

- ◆トラクターなどの農業用機械の購入資金
- ◆栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
- ◆その他農業経営に必要な資金

農業を営むすべての方に

農業経営資金

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を**5年間軽減**いたします。

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。

実質保証料

0円

JAバンク利子補給制度(3年固定)
当JA金利引き下げ(2年固定)措置の対象となります。
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

(お借入金利)	(JAバンク利子補給・金利引き下げ)	=	実質年0.2%
変動金利 年1%	年0.8%		

5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成30年11月現在

JAバンク 三重県下JA／JA三重直連